

農 学 部	①	37,294円
薬 学 部	②	74,587円
化学研究所	①	37,294円

なお、この日の席上で、主に図書の収集面における協力を意図した「化学系図書こん談会」を発足させることもきまった。

○国立大学図書館協議会常務理事会

〈とき：昭和44年12月12日（金） ところ：東大図書館〉

まず、この6月千葉大学で開かれた第16回総会以後の各調査研究班、特別委員会の活動状況、および、総会で決定された要望事項について、8月7日文部大臣に直接要望したことが報告された。

議題としては、とくに岸本奨励賞の募集について意見がかわされ、本年度は例年より締切を早め、2月末日とすることに決定。また「新しい大学図書館像」に関する委員会の発足は、各大学における検討の進みぐあいの関係で、あらためて考慮することになった。

○国立国会図書館長と大学図書館長との懇談会 一第3回一

〈とき：昭和44年11月25日（火） ところ：大阪府臨海センタービル〉

関西地区で第3回目の標記懇談会は、近畿を主とする国公立各大学30館の参加を得て開かれた。午前中は主として国会図書館印刷カードの普及について国会図書館からその現状や問題点ないし努力目標が言及され、これに対し種々の観点から協議された。この印刷カードは、米国でLC（議会図書館）カードが広く利用されているように、わが国でも国会カードが使用できれば、図書館業務の合理化と標準化が大きく促進される重要な問題であるので、熱心な質疑応答がなされた。

午後は国会図書館業務の機械化計画について報告があり、コンピューター導入の第1次5カ年計画の段階では、主に洋書関係（LCのMARC IIテープを使用しているの収書、総合目録や逐刊目録の編さん等）、第2次の和書関係の計画について詳しい説明を聞き質疑を行なった。この会合の午前午後の問題を通じて、大学図書館に影響するところが大きいだけ、国会図書館に対する要望と期待が大きく、また今後われわれも国会図書館と緊密な連繫を保って行くことの重要性が確認された。

一講演会

▽欧米の大学図書館における機械化の現状 小田泰正（国立国会図書館業務機械化準備室長）

〈とき：昭和44年11月24日（月） ところ：楽友会館〉

昨年開かれたIFLAの総会、国際目録専門会議での報告および実際に見てこられた図書館を中心に、欧米の大学図書館における機械化の現状について述べられた。各国ともMARCへの関心が高まり、MARCテープを利用して大学図書館の機械化を進めていこうとする傾向にあること、更に各国がMARC IIのFORMATと互換性をもたせてNational Bibliographyの機械化を計っている。図書館の本格的なオートメーションはオン・ラインによらねばならないとのことであった。

図書館人としての立場からの講演であったので図書館関係者にとって大変有益であった。

▽赤外線標準スペクトルチャート（サトラー）の利用講習会

〈とき：昭和44年12月10日（水）〉

今回の講習会は利用者によるその使用法を理解して頂くため、附属図書館赤外線標準スペクトルチャート運営協議会（委員長宍戸館長）が主催して、工学部工業化学講義室で開催された。学内の関係部局から、化学系研究者約200人が参加したが、利用者に対する講習会としてはなかなかの盛況であった。

なお、この資料に関する解説は、すでに本紙の1969年1月号に工学部野崎教授の一文が掲載されているので、参照願いたい。